

(別添6-2)(用紙寸法は、日本工業規格A列4とする。)

成果報告書

令和4年度「地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進」

団体名「公益財団法人こうべ市民福祉振興協会」

1. 事業の題名

「 KOBE しあわせの村ユニバーサルカレッジ 」

2. 委託事業の実施期間

令和4年5月30日から令和5年3月10日まで

3. 任意で実施する取組（実施する場合のみ、○を記入）

共生社会コンファレンス



4. 委託先組織の構成

(下記①②に必要事項を記載するほか、団体等の組織図など、組織体制の全体像が分かる資料を別途添付すること。)

①組織の主要構成員（役員等）

氏名	所属・役職等	備考欄
三木 孝	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 会長	
三浦 久美子	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 専務理事	
澤田 靖	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 常務理事	
金山 千広	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事 立命館大学 産業社会学部 教授	
古和 久朋	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事 神戸大学大学院保健学研究科 教授	
武田 良彦	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事 公益財団法人神戸新聞厚生事業団 専務理事	
西垣 千春	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事 神戸学院大学総合リハビリテーション学部 教授	
西田 勉	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事 公益大団法人神戸 YMCA 常勤理事	
羽原 好一	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事 社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団 常務理事	

大寺 直秀	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事 一般財団法人神戸在宅医療・介護推進財団 常務理事	
水野 ひろみ	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事	
酒井 俊	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 監事 株式会社三井住友銀行公務法人営業第二部副部長	
瀬尾 文洋	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 監事 税理士	
種池 寛	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 兵庫県福祉部次長	
大辻 正忠	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 一般社団法人神戸市老人クラブ連合会 理事長	
谷村 誠	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 兵庫県社会福祉法人経営者協議会 会長	
玉田 敏郎	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 社会福祉法人神戸市社会福祉協議会 理事長	
津田 佳久	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 神戸商工会議所 常務理事	
市橋 祐子	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 神戸市民生委員児童委員協議会 副理事長	
松端 信茂	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 神戸市知的障害者施設連盟 会長	
堀本 仁士	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 一般社団法人神戸市医師会 会長	
森下 貴浩	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 神戸市福祉局長	
山口 康志	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 神戸労働者福祉協議会 事務局長	
山本 孝子	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 評議員 一般社団法人神戸市婦人団体協議会 会長	

②事業推進担当者

事業内容について、協会内に学識経験者、医療・福祉関係者による「KOBE しあわせの村ユニバーサルカレッジ実行委員会」を設置した。専門的な知見や当事者の視点から運営手法やプログラム企画の検討・ブラッシュアップを行うとともに、受講生が委員会に参画し、当事者と共に学びの場づくりを行った。なお会議開催にあたっては、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に留意し、オンライン開催とした。

氏名	所属・役職等	備考欄
三木 孝	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 会長	委員長
岡本 正	株式会社 WAP コーポレーション 代表取締役	
三浦 久美子	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 専務理事	

大本 正巳	公益社団法人 全国障害者雇用事業所協会 監事	
後藤 徹也	一般財団法人神戸市学校給食会 会長	
澤田 敏夫	カワサキモーターズ株式会社 企画本部 総務部 基幹職	
笹森 理絵	神戸市発達障害ピアカウンセラー 精神保健福祉士・社会福祉士 ※	
近藤 武夫	東京大学先端科学技術研究センター 教授	
飯島 久道	社会福祉法人神戸市社会福祉協議会 新規事業推進担当局長	
赤木 和重	神戸大学大学院人間発達環境学研究科 准教授	
河崎 洋子	社会福祉法人 芳友 にこにこハウス医療福祉センター 施設長	
田中 康介	神戸学院大学 経営学部 教授	
水野 ひろみ	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 理事 ※	
南 謙二	特定非営利活動法人社会還元センターグループ わ 理事長	
池内 真知子	特定非営利活動法人社会還元センターグループ わ 理事	
宮野 愛子	株式会社ライフ・シンセリティ 代表取締役	
吉田 茂之	美津濃株式会社しあわせの村テニスコート 支配人	
奥山 隆彦	株式会社ウエルネスサプライ しあわせの村温泉健康センター 総支配人	
実平 典子	新明和ハートフル株式会社 取締役	
柳 有香	兵庫県印刷工業組合副理事長 共栄印刷株式会社 代表取締役 社長	
児玉 明子	児玉明子税理士事務所 所長 税理士	監事
受講生の中から希望する1年生1名が参画※		

※家族を含む障害当事者

5. 事業の実施に係る全体像

(地方公共団体と民間団体との具体的な連携内容を含め、連携先や再委託先の関係、本実践研究事業の実施に係る実施体制の全体像について図示すること。また、本事業全体を通じた目標の達成状況や、本事業終了後の目指す方向性等についても触れること。)

1. 理念・目標・取り組みの柱

【理念】

「障がい者の生涯学習の機会創出を通じて、障がい者が自立や社会参加に向け学び続けることのできる社会の実現に寄与すること」を本事業実施における理念とした。

【目標】

理念の実現のため、カレッジの運営について以下の3つの目標を定めた。

- ①社会的自立に向けた知識、一般教養を身に付ける生涯学習の場の実現
- ②学生が自らの主体性を育み発揮する生涯学習の場の実現
- ③社会性を育み幅広い仲間づくりを実現する生涯学習の場の実現

【取り組みの柱】

各目標の達成のため、講座運営においては以下を取り組みの柱とした。

目標①について…学生の興味関心の幅を広げる幅広い分野の講義を提供する

目標②について…受講生自身がカレッジの経験の中で自身を表現する場づくりを試行する。

(※令和3年度実施した部活動種目の選択は、選択肢を拡充して継続する)

目標③について…行事や部活動を通じた高齢者との関わりや、カレッジの先輩である2年生と1年生の関わり、大学生等の参画等を通じた多様なつながりの場づくりを試みる。

【令和4年度の特徴】

①2学年制の実施

昨年度を受講生のうち継続受講を希望する者を2年生とし、新たな受講生(1年生)とあわせて2学年制とした。各学年に担任を配置し、多面的な機能を併せ持つ「場」としてのホームルームを運営した。

②講義テーマの多様性と講義形態の多様性

講義数を12講座に拡充するとともに、宇宙・音楽・アニメーションなど新たなテーマを追加した。また、野外活動やスポーツ等、実技や体験型講座を実施した。

③バーベキューやクリスマス会等受講生による自主企画の運営

④2年生による研究発表会の実施

⑤部活動の拡充

昨年度の運動系部活動に加え、文化系の部活動を3種目追加し選択肢の増を図った。

⑥実行委員会・連携協議会への受講生の参画

⑦余暇活動に関する受講生アンケートの実施

カレッジの受講初期と終盤においてアンケートを実施し、受講生の意識と行動の変容について測定を行った。

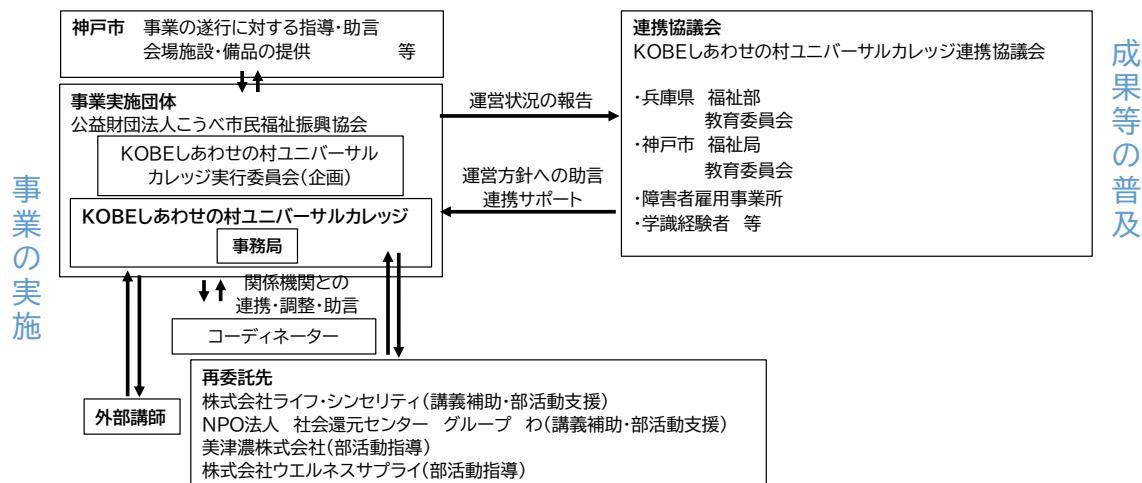
⑧普及啓発の取り組み

講義のアーカイブ動画をウェブサイトで公開し、広く視聴可能とした。

⑨兵庫県地域連携コンソーシアムとの連携強化

「地域連携コンソーシアム」の座長である津田英二氏が連携協議会の委員長に就任し、兵庫県事業との連携を強化した。

2. 実施体制



事業の実施

成果等の普及

事業期間の3年間をかけた運営手法やプログラムの開発を段階的に進め、事業終了後も、こうべ市民福祉振興協会の事業として持続的に実施できるモデルを研究する

(1) 実行委員会

公益財団法人こうべ市民福祉振興協会に設置する、学識経験者、医療・福祉関係者、家族を含む障がい当事者よりなる「KOBESHIAWASEノ村ユニバーサルカレッジ実行委員会」を令和3年度に引き続き企画の検討と実施の主体とした。委員会では障がい者の学校教育期から卒業後にかけての教育・医療・福祉・労働・生活に対する広範な知見を活かし、カリキュラムや運営手法について企画・検討し、講座の実施状況について自己評価を行ない、運営について検証を行った。また、希望する1年生の受講生1名が委員会へ参加し、講座の感想や改善点、学びたいテーマ等について意見交換をした。

(2) 連携協議会

学識経験者、行政(県・市の教育・医療・福祉)、障がい者雇用事業所等により構成される連携協議会を設置し、事業の実施内容について専門的な知見からの助言・提言を適宜行い、実行委員会によるカリキュラムや運営手法に関する自己評価について検証・評価を行った。また、希望する2年生の受講生2名が協議会へ参加し、講座の感想や改善点等について意見交換をした。

(3) コーディネーター

連携協議会委員でもある「しあわせの村ユニバーサルコーディネーター」については、教育委員会等関係機関、障がい者就労企業・事業所との連携のほか、特別支援教育について有する高い見識をもとに各運営事業者(再委託先)への指導・助言を行う等当事業全般にわたるコーディネートを担当した。

(4) 再委託先

①株式会社ライフ・シンセリティ

…就労継続支援B型事業所運営事業者であり、担任2名を派遣するとともに、今年度も事業所利用者がスタッフとして設営、受付等の運営補助業務にあたった。障がい福祉サービス事業所の支援員としての知識と経験を活かし、受講生一人ひとりの特性を把握し細やかな目配りを行なうことで必要な配慮をアドバイスするほか、学年ごとのホームルームを運営し、安全で円滑な事業実施を支援した。

②特定非営利活動法人社会還元センターグループわ

…神戸市の高齢者生涯学習施設「神戸市シルバーカレッジ」の卒業生が中心となって設立されたボランティア組織であり、ライフ・シンセリティ社と共同で、設営、登下校の安全確認、

講義中の補助などの運営補助を担った。令和3年度に引き続き何か困りことがあればスタッフに気軽に声をかけられる関係性・環境づくりを意識して運営に参画した。

…令和4年度は、茶道、絵手紙、草木染め、琴の体験から日本文化にふれる文化系部活動「和の世界」の運営を担うなど、より受講生との関係が深まった。

③美津濃株式会社

…運動施設・教室運営の経験に基づく安全への配慮、障がい者スポーツについて有する知識と経験に基づく活動内容の立案や指導者の選任を行い、参加者の交流が深まる部活動運営を行った。

④株式会社ウエルネスサプライ

…運動施設・教室運営の経験に基づく安全への配慮、障がい者スポーツについて有する知識と経験に基づく活動内容の立案や指導者の選任を行い、参加者の交流が深まる部活動運営を行った。

(5) 神戸市

神戸市は、会場施設(神戸市シルバーカレッジ)および設備備品の提供や、テーマに応じ講師の派遣、フォーラムの関係機関への周知等を行なうなど、事業に協力した。(6月11日開講式にて久元喜造神戸市長による特別講義を実施)

3. 本事業終了後の目指す方向性

事業期間を通じ運営手法やプログラムの開発を段階的に進め、事業終了後も公益財団法人こうべ市民福祉振興協会の事業として持続的に実施できるモデルを研究する。また、ユニバーサルカレッジを卒業する受講生が、地域の社会教育施設を利用するなど学びを継続できるよう取組みを進めていく。

6. 事業の実施結果

(1) 効果的な学習プログラムの開発・実施

①開発・実施の経過(具体的な内容は6.(1)②に記載すること。)

4月	} (契約締結後)受講生募集
5月	
6月	開講式・第1回講義・オリエンテーション等(第2土曜日)
7月	第2回講義・部活動(第2土曜日)
8月	※特別講義(第4土曜日)
9月	第3回講義・部活動(第1土曜日)
10月	第4回講義(野外活動を含む)(第3土曜日)
11月	第5回講義・部活動(第4土曜日)
12月	第6回講義・自主企画行事(クリスマス会)等(第3土曜日)
1月	第7回講義・部活動(第2土曜日)
2月	第8回講義・閉講式・研究発表(第4土曜日)
3月	

②具体的な内容

(効果的な生涯学習プログラムに係る取組内容を具体的に記載すること。学習講座や活動等を開催した場合、実施スケジュールや内容、多様な者との交流や共同学習など共生社会の実現に向けた取組、障害者本人の意見の反映や自主的な活動の促進、外部講師招聘及びボランティアスタッフ活用の有無、参加対象者のターゲット(障害種・属性・活動規模等を含む。)等を記載すること。また、結果として、効果的な生涯学習プログラムを提示し、根拠とともに記載すること。なお、実施結果を踏まえ今後さらに検討すべき点や課題等についても触れること。)

1. 対象者について(開講時想定と令和4年度受講実績)

(1)開講時想定

①令和3年度の受講生のうち継続して受講を希望する者を2年生とし、1年生を新たに募集した。また、「対象者の障がい種別等にあらかじめ制限は設けず、受講者の具体の障がいに応じた支援の手段を用意する」ことを方針として開講した。

②通年受講40名程度(1年生20名・2年生20名 介助者は員数外)を見込んだ。

(2)令和4年度受講実績(通年受講生40名)

①1年生

・年齢別

19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	31歳	32歳	67歳	計
3	6	2	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	16
3	11					0					1			1	

・男女別

男性	10	女性	6	計	16
----	----	----	---	---	----

・療育手帳程度別

A	B1	B2	計
1	8	6	15

※片耳難聴、肢体不自由上肢3級各1名ずつあり

②2年生

・年齢別

19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳	26歳	27歳	28歳	29歳	30歳	31歳	計
1	3	5	1	2	1	2	1	5	0	1	0	2	24
1	14					7					2		

・男女別

男性	20	女性	4	計	24
----	----	----	---	---	----

・療育手帳程度別

A	B1	B2	計
3	10	11	24

1年生において、講座内容の対象として想定していた「軽度から中度の知的障がい者」が、今年度も実際の受講生の大半を占めた。また、片耳難聴(人工内耳装用)の受講生に対して、野外活動等、講師の声が届きにくい場合など必要に応じて、ホワイトボードによる要約筆記を行い、視覚的な情報保障に配慮した。

(3) 「スポット受講」について

受講生同士の交流を深めるため通年の受講を原則としたが、会場の収容人数や運営体制の確保が出来る限り、昨年度に引き続き、希望者の事情に応じ特定の回のみ「スポット受講」を受け入れた（今年度は2名が受講）。2年連続の受講生もあり、一定のニーズが認められるため、来年度も引き続き検討する。

2. 実施内容

(1) 講座概要

①1日の時間割

講義とホームルーム活動、部活動、自主企画行事などを組み合わせて実施した。

時間割	
9:00	受付
9:30	ホームルーム
9:40	講義1
10:40	休憩
11:00	講義2
12:00	昼食
13:00	ホームルーム（学年ごと）
13:20	移動・休憩
13:30	部活動、自主企画行事等 16時終了

・始業、終業(昼食後)にホームルームを実施した。始業では、当日のスケジュールの確認等、終業では、学年ごとに分かれて、担任のもと連絡事項の伝達やアンケート調査記入等を行うとともに、1年生は交流を深める時間、2年生は研究発表の進捗状況の確認の時間とした。

・自主企画行事の計画やふりかえりを行い、受講生同士の相互理解と主体的な取組みを推進した。

・ホームルーム、講義、休憩時間、昼食、放課後(部活動)と、学校生活を模した形態とした。その中で、「クラス」「部活動」の各集団としての一体感を醸成し、居場所機能・仲間づくりを促進した。

②年間スケジュール

就労する受講生の参加を容易とするため各回講座は土曜日開催とした。

毎回午前中の講義に加え、7月、9月、11月、1月の計4回は午後に部活動を実施したほか、10月のバーベキューではグループごとに役割分担をして作業に取り組んだ。また、12月のクリスマス会では受講生の意見をもとに、ビンゴゲームを楽しむとともに、希望する受講生が歌やダンス等を披露した。

日程	講義内容	講師
6/11	<ul style="list-style-type: none"> ・開講式 ・特別講義：神戸未来景 ～大きく変わるまちの姿～ ・講義：人類の進化 	神戸市長 久元喜造 国立民族学博物館教授 信田 敏宏氏
7/9	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：日本の鉄道～日本の鉄道の歴史と未来 ・講義：宇宙を旅しよう ・部活動：種目は各自選択 	(株) JR 西日本あいウィル 代表取締役 勝田 素乃子氏 和歌山大学教授 尾久土 正巳氏
8/27	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季特別講義：ユニバーサル・ドローン協会の活動について 	(一社) 国際ドローン協会 榎本 幸太郎氏 高校生ドローンパイロット 宮崎 美侑氏 (福) プロップ・ステーション 竹中 ナミ氏
9/3	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：からだの不思議 ～性についてかんがえる～ ・講義：水族館の役割とは？～いのちをつなぐ学習～ ・部活動：種目は各自選択 	神戸大学名誉教授 高田 哲氏 須磨海浜水族園 古田 圭介氏
10/15	<ul style="list-style-type: none"> ・しあわせの村で野外活動（バーベキュー） 	岡山大学准教授 池谷 航介氏
11/26	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「夢に向かって ～今できること 今しかできないこと～」 ・クリスマス会の相談 ・部活動：種目は各自選択 	北京オリンピック陸上 5000m 日本代表 小林 祐梨子氏
12/17	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「クラシック音楽にふれる ～クリスマス音楽を楽しもう～」 ・クリスマス会 	サキソフォニスト 石田 さと子 サキソフォニスト 海江田 真子 ピアニスト 具 夏子氏
1/14	<ul style="list-style-type: none"> ・講義：手塚治虫のマンガとアニメーション&手塚治虫記念館について ・部活動：種目は各自選択 	手塚プロダクション取締役 清水 義裕氏
2/25	<ul style="list-style-type: none"> ・講義「神戸の歴史と文化2」 ・2年生による研究発表会 ・閉講式 	園田学園女子大学名誉教授 田辺 真人氏

※参考：2月10日に「実践発表フォーラム」（会場：神戸市教育会館大ホール）を実施

③プログラムの特色

令和3年度より継続して受講を希望する受講生を「2年生」と位置づけ、主体的な発表の機会として希望者による研究発表会を実施し、カレッジでの学びや経験の深まりにつなげた。また、2年生が1年生をサポートするなど、「先輩としての行動」がカレッジ運営の助けとなった。

なお、講義や部活動、自主企画については「1年生・2年生」合同で実施し、「ホームルーム」活動を中心にそれぞれの学年クラスに分かれ実施した。

(運営事業者(グループw)によるアンケート自由記述より)

★自信がついてきたような気がします。1年生の時以上にのびのびと楽しんでいる様子が伺えました。

★2年生ということを感じて1年生に対して色々アドバイスする人を見かけた。

★人数が増えたことで1年生との交流の幅が広がり、2年生に関しては去年よりもさらに仲良くなっているように感じます。また2年生は2年目ということで、落ち着きがあったように思っています。

(2) 講義 (興味関心の広がり)

① 特色

受講生の興味関心の幅を広げるため、特別支援学校等の在学中には学ぶ機会のなかった人文学、自然科学、スポーツ・芸術等さまざまなテーマの講義を開講した。

テーマの広範さに加え、ドローンの操縦風景の見学、野外活動、元オリンピック選手による実技指導、サックス演奏鑑賞、合唱といった座学のみならず「見て・感じる」ことのできる講義内容や実技実習を交えるなど多様な講義形態を導入した。

② 運営上の工夫

(ア) 資料における視覚支援を意識し、受講生の理解の助けとした。

(イ) 受講生からの質問を受ける「質問タイム」や、講義内容に関するクイズを出題しつつ進行する等、双方向性を意識した。



【質問タイムの様子】



【クイズの様子】

先生の話がわかった	先生の話に興味を持った
82.8%	81.8%

全講義平均値

アンケート調査では、「講義内容が分かった」「講義内容に興味関心を持った」と答えた受講生の割合は、すべての回を通じて高く、また自由記述欄では講義での気づきやもっと知りたいことを記述する回答が多くあり、興味関心の触発や学びの経験を得たことが見て取れる。

(講義毎のアンケート調査 自由記述より)

- ★神戸市の未来の街のイメージがきれいで散歩したいなと思いました。(6/11・神戸未来景)
- ★仲間と協力して楽しくできました(10/15・野外活動)
- ★夢や目標を紙に書いて、自分のできる範囲で、達成する努力をすることがとても大事な事だったことが分かりました。(11/26・夢に向かって)

(3) 部活動(仲間づくり)

しあわせの村の充実した施設を活かした部活動を8種目実施し、受講生同士の交流の場とした。令和3年度の運動系の部活動に文化系の部活動3種目を加え、受講生の選択肢を増やした。

○種目と参加受講生数

テニス	4名
卓球	6名
ボクシングフィットネス	6名
ダンス	5名
スポーツ	5名
和の世界	4名
調理クラブ	5名
鉄道クラブ	5名



部活動(ダンス部)

※特定の種目を志向しない受講生に対して、「スポーツ部(ノルディックウォーキング、しあわせの村でのウォーキング等を実施)」、「和の世界(茶道、絵手紙、草木染め、琴を実施)」をそれぞれ設置し、毎回異なるメニューで気軽に参加できる部活を運動部・文化部ともに設けた。→部活動によって交流が深まる様子がアンケート調査結果でもうかがえる。

部活動は楽しかった	部活動の仲間と仲良くなった
97.4%	84.2%

(アンケート自由記述より)

- ★ジムで気持ちよくストレッチしてボクササイズの練習を続けてすごく運動しやすかったです(ボクシングフィットネス部)
- ★鉄道クラブで仲間が作れた。(鉄道クラブ)

(4) 自主的な企画行事

ホームルーム活動としてクリスマス会等の行事の企画内容について、受講生同士で意見交換をする場を設け、プログラムに反映させた。野外活動では班に分かれて、役割分担を決め、各自役割を担うことにより、受講生自身が、意見交換・調整・計画等のプロセスの体験を通じて相互の理解を深め、物事に主体的に取り組む経験とした。



【クリスマス会の様子（受講生出し物）】



【野外活動（火を付ける準備）の様子】

→講師の説明から、受講生だけで火をつけた

(クリスマス会「みんなと相談して感じたこと」の設問への回答)

★たくさんの意見が出ました。自分のことも言えた。

★みんなのできることを考えることができた。出し物はいくつかパターンを想像してみようと思います

(野外活動「どんなどころが楽しかったですか」の設問への回答)

★みんなで分担して協力したこと

★仲間と協力して楽しくできました

(5) 学びの発展と自己表現(アウトプット ※「2年生」を対象)

受講生が自らの学びや興味関心の広がり・深まりについて、発表・表現する「研究発表会」を実施した。毎回のホームルームにおいて、担任が進捗状況の確認・助言を適宜行い、それぞれの研究テーマについて自主的に調べたり、取材をするなどして、それらをまとめ発表を行った。

＜研究発表のテーマ＞

ウミガメの研究、行ってよかったベスト5、鉄道、歌、ダンス など

＜講評者のコメント＞（信田先生・高田コーディネーターのコメント）

- ・大勢の前で発表することは緊張するが、皆さん笑顔で堂々としていた。
- ・ダンスなど、今日に向けてたくさん練習したのではないかと想像できる。
- ・会場からの質問も多く、歌やダンスでは全員が盛り上がった。
- ・皆さんの好奇心や知識にびっくりした。
- ・興味があることは人生においてとてもいいことである。今後も知りたいこと、学びたいことを探求してほしい
- ・パワーポイントも素晴らしいものができていた。



【研究発表 サックス演奏&歌】



【研究発表 阪急電車の車両】

(6) 運営の多様性（多様な人々との交流や共生社会の実現に向けた取り組み ②）

①高齢者ボランティアスタッフの参画

講座開催場所とした神戸市の高齢者生涯学習施設「神戸市シルバーカレッジ」の卒業生が中心となって設立されたボランティア組織「NPO 法人社会還元センターグループわ」のメンバーが、毎回の講座においてライフ・シンセリティ社と共同で、設営、登下校の安全確認、講義中の補助などの運営補助を担った。また、自主的に障がい者との関わり方を学ぶ活動をするなど、よりきめ細やかな気遣いにより、何か困りことがあればスタッフに気軽に声をかけられる関係性が昨年度以上に強固となり、受講生が安心して受講できる環境作りに寄与した。また、今年度は新たに部活動「和の世界」の運営主体となり、より受講生との交流が密になるとともに、関わるスタッフも増えた。



【クリスマス会の補助の様子】



【和の世界（絵手紙）指導の様子】

（一緒に楽しみつつ、困ったときには寄り添いサポート）

→「グループわ」にとっても2年目を終え、障がい者に対する理解が深まることはもとより、受講生の特徴を理解した上で、一緒に楽しみながら参加しているメンバーがいたことがうかがえる。

（アンケート カレッジの事業運営への参画を通じて得た経験や気づきなどがあったか 自由記述）

★心が素直であること。理屈ではないなにかそのいい雰囲気を感じることができた。関わるほどに気持ちとは裏腹に会話の組み立てが難しい、言葉が聞き取りにくい、思ったより手先が器用ではないなどの問題が見えてきた。そのあたりをうまく乗り越えて、さらに仲良くしていきたい。

★素直な人、人なつっこい人が多く、人の話もよく聞いていて、いいところが思っていたより多く感じられた。

→次年度は「和の世界」に加えて、グループわが実施する新たな部活動を新設する予定。

②障がい当事者同士 特に同年代や「先輩」との交流

株式会社ライフ・シンセリティの運営する就労継続支援B型事業所「カレッジ・アンコラージュ」より、令和3年度に引き続き、事業所利用者が毎回3名程度出務し、設営の補助、受付等の運営補助業務にあたった。また、受講生とともに講義にも参加した。同年代の一般学生の参加については、講義聴講について呼び掛けを行った（参加実績はなし）。



【受付の様子(紺色のユニフォームが事業所利用者)】

→参画した事業所利用者にとっても有意義な経験であったことが、同行した支援者へのアンケートから見て取れる。

(アンケート B 型事業所の利用者(研修生)の参画が有意義だったと思われた理由など 自由記述)

★講義中に限らず、それ以外の時間でも生き生きとしている様子が伺えたから。普段なかなか聞くことのできない話や体験することのないことを多く経験することができているから

3. 障がい者本人の意見の反映や自主的な活動の促進

(1) カリキュラムにおける受講生への意見聴取・自主活動の促進

①部活動種目の選択制と鉄道クラブの新設

部活動種目(スポーツ・ダンス・テニス・卓球・ボクシングフィットネス・鉄道・調理・和の世界)を本人の興味関心に応じ選択制とした。

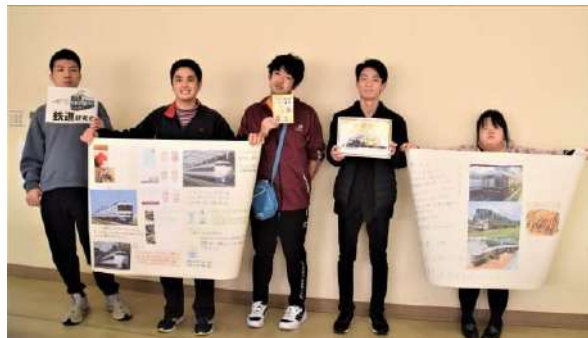
(6/11 部活動オリエンテーションにて各部紹介の後、希望調査を実施)

また、昨年度の実行委員会での受講生の意見により、今年度より鉄道について研究する「鉄道クラブ」を新設している。



【オリエンテーションでの部活動の紹介】

(ボクシングフィットネス部)



【鉄道クラブ】

それぞれがオリジナル鉄道図鑑を作成した

②課外活動の実施

野外活動・クリスマス会の課外活動について、受講生の意見の聴取を行い、自主的な活動を促した。また、2年生を対象として、研究発表会に向けた準備をとおして、カレッジ外での学びを促進した。

a. 野外活動(10/15実施)

各班に分かれて、各自の役割分担を話し合い、各自自主的に役割を全うした。



【バーベキューの様子】



【片付けの役割分担（炭の処理、網の清掃）】



b. クリスマス会（12/17 実施）

11/26 講義後に次回（12/17）実施予定であったクリスマス会の企画についての意見聴取を行い、そこで挙げられたビンゴゲームと各受講生の特技を披露する「出し物」をクリスマス会のプログラムに盛り込んだ。出し物では、それぞれの個性がいかんなく発揮され、自らを表現する場となったほか、グループに分かれ、協力してクリスマスツリーの飾りつけを行うなど受講生同士の相互理解の更なる深まりにもつながった。



【クリスマス会（受講生の出し物）の様子】



【クリスマスツリー飾りつけの様子】

c. 研究発表会

2年生が研究発表のためにそれぞれのテーマに沿って、カレッジ以外の場において主体的に学びを深め、それらをまとめ、発表した。インプット・アウトプットの場を提供することで、受講生に自ら学ぶ楽しさの経験となった。

思った通り発表できた	発表を聞いて楽しかった
73.3%	78.9%

（アンケート自由記述より）

- ・それぞれの思いと個性が出ていて、面白いものばかりでした。
- ・歌とダンスで、皆からの手拍子とともに、盛り上げることができてよかったです。
- ・来年も研究発表会の時間があれば出たいと思いました。

→次年度は、引き続き部活動・課外活動（野外活動・クリスマス会）、2年生の研究発表会を実施する。また、3年生は卒業後も地域の施設を活用して学び続けるきっかけとして、博物館等への施設訪問を企画予定。カレッジの場以外での学びを経験することで、カレッジ卒業後の「余暇としての学び」の具体的なイメージの醸成と地域の社会教育施設に自発的に向うきっかけづくりのプログラムを検討する。

(2) 実行委員会・連携協議会への受講生の参画

希望する1年生1名が10月、1月に開催した実行委員会に出席した。また、希望する2年生2名が1月に開催した連携協議会に出席した。それぞれ講座の感想や改善点の有無等について意見を交換した。※1月の実行委員会と連携協議会については合同で開催した。



【第1回連携協議会・第3回実行委員会合同会議（2/1, オンライン開催）で意見を述べる受講生（右画面が受講生）】

(3) アンケート調査より当事者の意見の調査・反映

アンケートにより「新たに学んでみたいこと」「やってみたい部活動」等、調査を行ない受講生も参画した連携協議会・実行委員会で検討をおこなった。

今後希望する講義テーマ・新しく知りたいこと (自由記述より一部抜粋)	反映
料理、ものづくり、SDGs、テーマパーク、北海道の観光、スポーツ、食べ物、世界、パン作り、宝石・服の組み合わせ、鉄道、バス、生き物、神戸の漁業、一ノ谷の戦い、恐竜、特撮、六甲牧場、ニジゲンノモリ、動画制作・・・	→講義テーマ選定の参考とする
やってみたい部活動 (自由記述より一部抜粋)	反映
小物づくり（アクセサリーやミサンガ、刺繍、編み物など）、パソコン、工作、写真、サッカー、筋トレ、ポイトレ、演歌、おさんぽ・・・	→部活動新設の際に参考とする

4. その他実施事項（新型コロナウイルス感染症拡大防止対策）

- ①受付時の検温、体調確認の実施並びにマスク着用、手指消毒をスタッフの声掛けをこまめに行い確実に実施した。
- ②本人及び家族の状態により実際の登校が難しい場合においても、学びの機会を継続的に提供するため毎回の講座についてオンライン同時配信とするとともに（Zoomのウェビナー機能を使用）、講義の様子をアーカイブ動画としてまとめ、ホームページ上で配信した。

5. 実行委員会による自己評価

上記のプログラム実施結果に対し、アンケート調査結果を踏まえ実行委員会にて自己評価を行った。

※事業評価及びアンケート調査結果詳細については別添資料参照

(2) 連携協議会の開催及び効果的な実施体制や関係部局・民間団体等との連携体制の構築

①連携協議会の構成員

氏名	所属・役職等	備考欄
津田 英二	神戸大学大学院 大学院人間発達環境学研究科 教授	
上野 昌稔	神戸市教育委員会事務局 学校教育部 特別支援教育課長	
植松 直樹	公益社団法人 全国障害者雇用事業所協会 兵庫支部長 株式会社エスコアハーツ 取締役	
若杉 穰	神戸市福祉局 副局長	
村松 好子	兵庫県特別支援学校校長会 会長	
村上 恵一	兵庫県福祉部 次長	
高田 哲	神戸大学名誉教授 神戸市こども家庭局総合療育センター 診療担当部長	
蔵本 朗	神戸市立特別支援学校校長会 会長	
松端 信茂	一般社団法人兵庫県知的障害者施設協会 会長	
松原 建二	社会福祉法人かがやき神戸 理事長	
森崎 康文	神戸市立ワークセンターひょうご 所長	
奥脇 学	前公益社団法人全国障害者雇用事業所協会 理事 近畿ブロック長	
角野 寛典	株式会社KEGキャリア・アカデミー 代表取締役社長	
村田 淳	京都大学学生総合支援機構 准教授	
三木 孝	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 会長	
信田 敏宏	国立民族学博物館 グローバル現象研究部 教授	
高田 雅光	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会しあわせの村ユニバーサルコーディネーター	
希望する2年生2名が参画※		
※連携協議会に、兵庫県教育委員会が行う「地域連携コンソーシアム」の座長である津田英二氏の参画を新たに得て、当事業との連携を強化した		

②連携協議会事務局構成員（4. ②の担当者の兼務可。また、事務作業スタッフを除く。）

氏名	所属・役職等	備考欄
狩野 りか	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 企画運営本部 障がい者就労推進コーディネーター	
高田 明弘	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 企画運営本部 福祉推進課企画推進担当係長	
畑野 健一	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 企画運営本部 福祉推進課	
宮永 晃輔	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 企画運営本部 福祉推進課	

③連携協議会の開催及び効果的な実施体制や関係部局・民間団体等との連携体制の構築の実施

経過（具体的な内容は6.（2）④に記載すること。）

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・各回講義観覧（もしくはオンライン配信） ・各回の（講義以外の1日を通じた）実施内容ダイジェスト動画及び講義の配信動画を委員会限定のアップロードサイトにて都度共有 	
5月		
6月		
7月		
8月		
9月		
10月		
11月		
12月		
1月		
2月		第1回連携協議会（自己評価方針、各アンケート調査結果の検討）、各委員フォーラム広報に協力 連携協議会・実行委員会共催として実践発表フォーラムを開催
3月		第2回連携協議会（成果報告書案の検討）

④具体的な研究内容

（連携協議会における議論内容、検討結果等を記載するとともに、「どのような者と連携すると効果的な実施体制・連携体制が構築できるか」等に関する分析・検証を行い、具体的な実施体制・連携体制等のモデルを提示すること。その際、自立や社会参加・就労等に関わる具体的なデータ・調査結果・事例等のエビデンスに基づく事業成果の分析・検証結果もあわせて記載すること。なお、実施結果を踏まえ今後さらに検討すべき点や課題等についても触れること。）

1. 連携協議会の活動

(1) 毎回講座内容のフォローアップ

- ・各回講義の観覧（もしくはオンライン配信）
- ・各回の（講義以外の一日を通じた）実施内容ダイジェスト動画及び講義の配信動画を委員会限定のアップロードサイトにて共有。



動画共有サイト

(2) 事業の検証・評価

受講生アンケート結果、障がい当事者を含む実行委員会による自己評価を踏まえ、事業について分析・評価した。評価にあたり評価軸として下記2点を定め、うち②については目標

(本成果報告書 5. 1 記載)に応じた3つの指標(①・②・③)に細分して検討を行なった。

【各評価項目における 評価基準は下記のとおり】

- ・ 指標の達成・未達成による評価 (達成できた=○ 達成できなかった=×)
- ・ 指標の達成度合による評価 (A B C 3 段階評価)
- ※アンケート調査の当該指標に係る回答において、
80%以上=A 60%以上 80%未満=B 60%未満=C

①学校から社会への移行期の障がい者への学習機会の創出

→評価:「○達成できた」(本年度実績 受講者数 40 名 (うち2名スポット受講))

<委員の意見>

★昨年よりも充実の内容(上野委員 第1回連携協議会)

昨年と比べさらに講義内容が充実していると感じた。部活動も増えた。また、受講生も増えて仲間づくりも進んでいる。市内の特別支援学校でこの取り組みを理解していただき参加が増えるようさらに推進していきたい。

②学園生活を通じて受講生が獲得する力の維持・開発・伸長

(ア)知識や興味の広がり(知識 教養)

i)多彩なテーマによる講義プログラムの提供

→評価:「○達成できた」

ii)カレッジ受講を通じて新しいことを学んだ受講者数

→評価:「達成度 A」

iii)異なる講義のテーマに対し、興味関心を持つ経験をした受講生数

→評価:「達成度 A」

<委員の意見>

★こころ、学び、機会の豊かさ(村松委員 第1回連携協議会)

受講生の熱心さ、関心の高さ、学びに対する意欲の高さに感心した。1年目、2年目と続けていく強みを感じている。部活動も熱心に楽しくされている。こころの豊かさ、学びの豊かさ、機会の豊かさを感じる。

(イ)学ぶ意欲の向上(自立性 主体性)

i)主体的な科目選択の機会の創出

→評価:「○達成できた」

ii)主体的な発表の機会の創出

→評価:「○達成できた」

iii)カレッジ運営への参画機会の創出

→評価:「○達成できた」

iv)学びの場への参加を今後も希望するか

→評価：「達成度 A」

v) 社会教育施設への参加の意欲と行動の変容

→評価：「達成度 B」

<委員の意見>

★自己決定の機会の増加（近藤委員 第1回連携協議会）

知的障がいを持つ方は、学校卒業後、自己決定の機会が少ないが、ユニバーサルカレッジでは部活動を自ら選択している。また、鉄道クラブは受講生の提案からはじまっており、まさに大学生のサークルのような形になっている。自己決定の機会が増えたという点でも取り組みが広がっていると感じた。

★学びのきっかけづくりの取り組み（若杉委員 第1回連携協議会）

社会教育施設への参加意欲に対する評価については、このような取り組みに参加してすぐに行動変容に繋がらないと捉えている。主観的な部分と判断しがちな所をアンケートにより客観的にみていて、結果はBとなっているが、学びのきっかけづくりになっている取り組みと考えると長い目で見てどう変化していくか見ていきたい。

(ウ) 様々な人との交流経験の積み重ね（コミュニケーション能力 社会性）

i) 受講生同士の交流機会としての部活動の実施

→評価：「○達成できた」

ii) グループや班による共同学習、体験機会の創出

→評価：「○達成できた」

iii) カレッジで仲間や友人が出来た受講生数

→評価：「達成度 A」

iv) 2学年制の実施による新たな交流の創出

→評価：「○達成できた」

v) 受講生家族のユニバーサルカレッジへの評価

→評価：「達成度 A」

vi) 受講生所属先（職場・事業所）のユニバーサルカレッジへの評価

→評価：「達成度 A」

<委員の意見>

★人間関係の広がりを感じる（松原委員（第1回連携協議会）

当事業所からカレッジに参加している受講生の感想は、交流できることが良かったとアンケートでも出ている。事業所では、決まったプログラムに参加し、人間関係が広がりにくい状況にある。受講生の様子を見ると人間関係の広がりを感じる。

※その他付随的に見出された点

「支援スタッフの必要性」

…困った様子を見せる受講生がいれば、講義中であってもスタッフが積極的に声をかけサポートしたことが、受講生にとっての安心・安全なカレッジ受講の支援となっていた。

(まとめのアンケート スタッフがいてくれてよかった時は? 受講生回答)

★複数回答: 登下校 15 講義中 10 部活動 9

(まとめのアンケート 支援したシーンは? 運営参画事業者 1 グループわ ライフ・シンセリティ回答)

★複数回答: 登下校 11 講義中 10 部活動 14 その他 5→ (4 年度に直している)

※アンケート調査結果詳細については別添資料参照

2. 効果的な実施体制・連携体制について

特別支援学校、障がい者が働く企業や就労支援事業所、支援機関、行政が連携することで、学校教育から卒業後における学びへの接続のあり方や、地域の学びの場へのつなぎ等についての議論を深めることができた。

<委員の意見等>

★講義内容も充実し、部活動も増えた。また受講生も増えて仲間づくりが進んでいる。市内の特別支援学校でこの取り組みを理解していただき、参加者が増えるよう推進していきたい。

★会社の中とは違った能力をカレッジでは発揮していることから、このような場の必要性を感じる。

★障がい者のなかには、休日に外に出て行かない人もいる。そういった人達にとっては、カレッジは外出の機会となり、生活リズムを整えることにつながっている。

3. 今後検討すべき点や課題等について

①地域の社会教育施設の利用行動の広がり

受講初期と受講後期に実施した余暇活動に関するアンケート結果等では、新しいことを学びたい意欲は高いものの、地域での学びの場への参加については、やや慎重な傾向にあることから、地域の社会教育施設への利用が広がるよう取り組みを進める。

②同世代の一般学生との交流の推進

高齢者や同世代の障がい者との交流に加え、しあわせの村を拠点に活動する大学生ボランティア等の参画を募り、受講生とともに講座を聴講したり、部活動等への参加をしてもらうことで、一般学生との交流を推進する。

③学び続けることへの支援

カレッジで講義を受けるだけでなく、講義後に自ら調べたり、実際に現地へ出向くなど、さらに受講生自らが学びを深めることができるような働きかけを検討していく

④事業の継続性

今後も同様に事業を継続することができるのか、また継続する際には、どのような視点(福祉的な視点、教育的な視点など)で進める必要があるのか検討していく

<委員の意見等>

- ★知的障がいのある方は、学校卒業後、自己決定の機会が少ないが、ユニバーサルカレッジでは部活動の選択など自己決定できる場面がある
- ★高齢者との交流はできているが、今後は同世代の方々との交流が出てくると、より素晴らしいと思っている。
- ★地域に戻り、他の機会に自発的に社会教育施設に参加できるかという、まだハードルがある。そこを解決していく必要がある。
- ★成果が表れている一方で、これだけのエネルギーのかかる事業を継続して一般化できるのか。しあわせの村から広げていくときに普遍性がもてるのかという課題がある。
- ★事業の継続性と発展性について、費用面の問題もあるが、福祉的な視点で進めるのか教育的な視点で進めるのか、いろいろな視点で考えていく必要がある。

(3) コーディネーターの活動やボランティアの育成・活用等の方策

①コーディネーター

氏名	所属・役職等	備考欄
高田 雅光	公益財団法人こうべ市民福祉振興協会 KOBE しあわせの村ユニバーサルコーディネーター	神戸市教育委員会事務局特別支援教育課指導主事、神戸市立友生支援学校校長、神戸市立特別支援学校長会会長を歴任後、特別支援教育課主任指導員として神戸市立特別支援学校在籍生徒に対する就労支援に長く携わる。

②実施経過（具体的な内容は6.(3)③に記載すること。）

4月	
5月	
6月	開講式・第1回講義（第2土曜日）
7月	第2回講義（第2土曜日）
8月	夏季特別講座（第4土曜日）
9月	第3回講義（第1土曜日）
10月	第4回講義（第3土曜日）
11月	第5回講義（第4土曜日）
12月	第6回講義（第3土曜日）
1月	第7回講義（第2土曜日）
2月	第8回講義（第4土曜日）
3月	

③具体的な内容

（コーディネーターの活動やボランティアの育成・活用等に係る検討結果等を記載すること。また、「どのような専門性を有する者がコーディネーターの役割に適しているか」、「具体的にどのように配置・活動すべきか」等に関する見解もあわせて記載すること。なお、検討結果を踏まえ今

後さらに検討すべき点や課題等についても触れること。)

1. コーディネーター

長年教育者として地域における特別支援教育と障がい者就労について携わった経験を有するコーディネーターを配置し、教育部局・民間団体等との連携を図った。

運営に係る再委託先や外部講師との打ち合わせにおいても、コーディネーターの持つ経験・知見が発揮され、適切な受講生への配慮等、特別支援教育の経験を活かした運営上の指導助言を行うことができた。

2. 指導者（外部講師）

(1) 講座講師

神戸市長 久元喜造・・・神戸未来景

国立民族学博物館教授 信田 敏宏氏・・・人類の進化

(株)JR西日本あいウィル 代表取締役 勝田 素乃子氏・・・日本の鉄道

和歌山大学教授 尾久土 正巳氏・・・宇宙を旅しよう

(一社)国際ドローン協会 榎本 幸太郎氏

高校生ドローンパイロット 宮崎 美侑氏

(福)プロップ・ステーション 竹中 ナミ氏

・・・ユニバーサル・ドローン協会の活動

神戸大学名誉教授 高田 哲氏・・・からだの不思議

須磨海浜水族園 古田 圭介氏・・・水族館の役割

岡山大学准教授 池谷 航介氏・・・野外活動・バーベキュー

北京オリンピック陸上 5000m 日本代表 小林 祐梨子氏・・・夢に向かって

サクソフォニスト 石田 さと子氏

サクソフォニスト 海江田 真子氏

ピアニスト 具 夏子氏

・・・クラシック音楽にふれる

手塚プロダクション取締役清水 義裕氏・・・手塚治虫のマンガとアニメーション&手塚治虫記念館

園田学園女子大学名誉教授 田辺 真人氏・・・神戸の歴史と文化 2

(2) 部活動指導者

部活動の外部講師には、安全に運営するために、障がい者への支援経験があるものを配置したほか、鉄道クラブや調理クラブは実行委員会委員が顧問を担った。また、「和の世界」についてはNPO法人「グループわ」のコーディネートののもと、シルバーカレッジで活動する高齢者が知識や技能を生かして支援を行った。

3. ボランティアスタッフについて（スタッフとして関わる中での気づき・共育ち）

(1) グループわ…受講生の主体的な学びを後押しする積極的なかわり

講義の補助・部活動支援等に配置したNPO法人「グループわ」は、神戸市の高齢者生涯学習施設「神戸市シルバーカレッジ」卒業生が中心となって構成されているボランティア組織であり、幅広い知識や経験を有する、意欲ある高齢者集団である。

昨年度に続き、再委託先として参画するなかで、運営事務・実務だけではなく受講生とのコミュニケーションを活発に図り、講義中や教室や部活動実施場所への移動時などに、受講生が「講師が今資料のどの部分を話しているのかわからなくなった」「トイレに

行きたい」「次にどこに集合か」といった小さな「困りごと」を気軽にスタッフに声掛けできる雰囲気を醸成したことは、主体的な学びをする上での入口支援となった。

一方、「グループわ」のメンバーにとっても今後の活動に資する経験を得た。

(2) ライフ・シンセリティ…受講生と同世代のスタッフとして、また一人の若者として

株式会社ライフ・シンセリティが運営する B 型就労継続支援事業所の利用者が運営補助スタッフとして参画した。一部の部活動や世代間交流行事では、受講生とともに活動に参加し、交流の機会ともなった。受講生とグループわのメンバーの世代間交流と相似形をなす、運営スタッフ内においても B 型事業所利用者とグループわの世代を超えた協同体験が、大きな経験となった。

(3) スタッフが受講生と関わるうえでの第 1 歩を支援する存在の重要性

株式会社ライフ・シンセリティが運営する B 型就労継続支援事業所同事業所の支援員は、「クラス担任」として受講生の一体感を醸成し交流を促した。また支援員はそれぞれの特性を把握し細やかな目配りを行なうことで安全な事業実施を支えたほか、必要に応じグループわや振興協会職員が受講生との接する上での配慮について助言する等、スタッフと受講生との円滑なコミュニケーション形成に寄与した。

(4) 実践研究の成果等の普及

①実施経過（具体的な内容は 6. (4) ②に記載すること。）

4月	ウェブサイトの整備
5月	
6月	開講についてプレスリリース
7月	
8月	
9月	
10月	講義のアーカイブ動画（一般向け）の配信開始 アーカイブ動画配信についてプレスリリース
11月	アーカイブ動画の配信
12月	アーカイブ動画の配信
1月	アーカイブ動画の発信 実践発表フォーラムの告知 報告書作成・公開
2月	アーカイブ動画の配信 実践発表フォーラムの開催
3月	

②具体的な内容

（実践研究の成果等の普及に係る取組内容を具体的に記載すること。成果報告会等のフォーラム等を開催した場合、実施スケジュールや内容、参加者の属性（地方公共団体・関係団体・一般等）

等を記載すること。（参加者実績については、下記表を参考に記載すること。）なお、取組の結果を踏まえて今後さらに検討すべき点や課題等についても触れること。）

1. ウェブサイトにおいて、ユニバーサルカレッジの概要等、情報発信を行った。
https://fukushi-action.com/employment_support/universal_college/



2. 成果報告書（本書）の作成を行なった。また報告書提出後すみやかにウェブサイトへの掲載を行なう。

3. 一般向けに各講義の動画を発信

上記ウェブサイトにおいて、ユニバーサルカレッジの各講義について、アーカイブ動画を作成し、一般向けに公開した。

4. より効果的に事業成果を普及するため、年間のダイジェスト動画を作成した。上記ウェブサイトに掲載予定。

5. 実践発表フォーラムの開催（連携協議会主催 実行委員会共催）

(1)実施スケジュール

令和5年2月10日実施（参加34人 うちオンライン14人）

金曜日開催により、教員等学校関係者、各事業所関係者の参加を促した。

また、オンライン併催とし、遠隔地または感染拡大防止の観点から外出が難しい希望者にも配慮した。

(2)フォーラムの内容

①KOBEしあわせの村ユニバーサルカレッジの実践発表

・実践概要について動画を交え報告した。

（概要資料はウェブサイト http://www.kobe-wa.or.jp/universal_college.html に掲載）

1 実施スケジュール

令和5年2月10日（金）に実施

金曜日開催により、教員等学校関係者、各事業所関係者の参加を促した。

また、オンライン併催とし、遠隔地または感染拡大防止の観点から外出が難しい希望者にも配慮した。



2 フォーラムの内容

(1) 基調講演

「学校卒業後も、いきいきと学び続けるために」のテーマで、神戸大学大学院人間発達環境学研究科津田英二教授による講演があった。



ユニバーサルカレッジ実践フォーラム2023.2.10

学校卒業後も
いきいきと学び続けるために



(2) KOBE しあわせの村ユニバーサルカレッジの実践発表

①実施概要について報告した。



②受講生へのインタビューを行った

- ・2年生（長崎瑞生さん）・・・懐かしい友達に会えることを期待して受講を希望した。カレッジに参加して、仲間づくりができ、共通の趣味を通じて交流を深めることができた。さらに人間関係を深めたいし、共感を得たいので来年度も参加を希望したい。
- ・1年生（中野佑亮さん）・・・いろいろな講義を聴こうと思って受講申込をした。最初は緊張したが、徐々に慣れて講義を楽しめた。どの講義も興味深く1つを上げるのは難しいが、バーベキューやスポーツの話が特に印象に残っている。続けて参加したいと思う。



(3) パネルディスカッション

学識経験者、障がい者を雇用する事業者、家族、支援者の立場、2年生の担任の登壇を得て、

○それぞれの立場からユニバーサルカレッジの取組みへの感想や意見等を発表

- ・大本 正巳氏・・・すべての講義に新たな発見があった。工夫した伝え方や受講生

への質問への対応等講師が素晴らしく、受講生が真剣に受講し、会社とは異なる表情を見ることができた。

高田先生の「からだの不思議」の講義では、伝えにくい問題を分かりやすく伝えてもらえたとし、ドローンの講義を通じて、障がい者の仕事の幅の広がりにつながる可能性を感じた。

また、家庭や職場でカレッジが話題になることで、新たな参加希望につながった。そのなかでも、しあわせの村へ通いにくいという人もいるので、地域のいろいろな場で学びの場があればと感じる。

- ・ 笹森 理絵氏・・・1年目は緊張した様子だったが、2学年制になり人間関係が広がった印象。大学生らしく群れができてきた。子どもの生活がより豊かになることは親の願いであり、卒業前からサードプレイスがあると知ることは安心につながる。自分を受け入れてくれる仲間がいて、安心して自分を発信できる場があることは自己実現につながる。このような場が継続的、永続的に続くよう支えてほしい。
- ・ 吉川 史浩氏・・・家族と話すには照れがあったり、職場ではどう思われるか気になって、自分を出しにくいのが、カレッジでは自分を大爆発して楽しんで参加している。特にクリスマス会では、歌やダンスなど自分の好きなことを発信して、互いを知る機会になった。仕事をするためのスキルや社会人としての常識の枠を離れて、生涯学習は自分の好きなことを掘り下げる、自由に学べるのが自己実現につながると思われる。



- ・ 津田 英二氏・・・当初生涯教育と言われていたが、生涯学習へと変わるなかで、学びを固くとらえがちであったところから、学びは楽しいものだという発見につながった。神戸大学で実施しているKUPPIに参加している人がユニバーサルカレッジにも多数参加していて、学びのコミュニティは形成されている。人との関係が苦手など参加をためらう潜在的学習者の参加が促されれば、場の不足が訪れることが予想され、ユニバーサルカレッジのような場を作っていくことが望まれる。

○今後の展望について

- ・ 大本 正巳氏・・・企業のなかでの研修や他社を見学することで学びが広がる。また、UCC博物館やカワサキワールド、鉄道博物館など企業による博物館等の開館も企業の役割かと思う。
- ・ 笹森 理絵・・・ユニバーサルカレッジはきちんとしたプログラムで実施されているが、もう少しゆるやかな学びの場があってもよいのかなと感じる。本人がい

かに満足したかをオープンゴールとする。

- ・吉川 史浩氏・・・講師からどうやって教えたらいいかとの不安の声はあるが、どうやったら伝わるかを考え、伝えたいことをかみ砕いて説明してもらうことで円滑に講義が進んでいる。プロフェッショナルな人材は多くのスキルを持っているので、そのような人材をどうつなぐかコーディネーターする人材が求められる。
- ・津田 英二氏・・・シルバーカレッジで障がい者の学びの場を生み出したことが大事。高齢者の学びの場を高齢者のみのものにしてしまうのはセクショナリズムによるもの。誰一人排除しない。あいのり、共有し、さまざまな場を学びの場として多機能に利用していくことが望まれる。人、モノ、金の確保は行政の役割。人と人をつなぎ、場を作っていくコーディネーターの役割を担っていく人材が求められる。

(4) 質疑応答、意見交換

- ★兵庫県のコンソーシアムのアプリをどの程度の人知っているか。さらに広げていく必要を感じる。グループでの支援があって、ユニバーサルカレッジが運営できている。ミュージアム・インクルージョン・プロジェクトを通じて、人と人がつながり面となることを願う。コーディネーターの役割を発信していきたい。
- ★福祉事業とユニバーサルカレッジをどうつなげていくかが課題。インターネット配信などを通じて、お互いを結びつけることができればと思う。
- ★高等部卒業後の進路選択をするなかで、18歳で働くことのイメージが持ちにくい。働きながら余暇をどう過ごすか。働く場、家庭、居場所が持てることが大事だと思う。

3 参加者 (参 48人 うちオンライン 16人)

	全体		来場	オンライン
カレッジ受講生	3	6.2%	3	0
受講生のご家族	0	0	0	0
行政関係者	6	12.5%	5	1
教育関係者	12	25%	7	5
企業関係者	6	12.5%	5	1
福祉サービス事業関係者	4	8.3%	3	1
障がい者関係団体関係者	4	8.3%	1	3
一般参加者	2	4.2%	0	2
運営事務局関係者	11	22.9%	8	3
	48		34	14

(参加者アンケートより)

- ★高等部卒業後、休日の過ごし方がとても重要だと思います。仕事以外の仲間と学んだり過ごすことで、さらになりたい自分になれるのではと考えます。(教育関係者)
- ★サードプレイスの大切さを感じました。会社以外の場所をみつけてほしいと思います。(企業関係者)



(5) 広域的な研究成果普及・人材育成等を目的とした共生社会コンファレンスの実施
 (3. において「共生社会コンファレンス」の実施を選択した場合のみ、6. (5) ①、②について記載すること。)

①実施経過 (具体的な内容は6. (5) ②に記載すること。)

4月	
5月	
6月	
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	

②具体的な内容

(共生社会コンファレンスの取組内容を具体的に記載すること。実施スケジュールや内容、参加者の属性(地方公共団体・関係団体・一般等)を明確にした上で、具体的に記載すること。(参加者実績については、下記表を参考に記載すること。)なお、取組の結果を踏まえて今後さらに検討すべき点や課題等についても触れること。)

--

(A) 参加者の属性について

	合計(人)
属性別参加者数	
(内訳)	
行政関係者(教育委員会)	
行政関係者(首長部局)	
学校教育関係者(大学等関係者を除く)	
大学等関係者	
公民館等社会教育施設関係者	
社会福祉法人関係者	
NPO法人関係者	
企業関係者(商工会等含む)	
保護者団体関係者(親の会・手をつなぐ育成会等含む)	
その他一般参加者	
運営事務局関係者	

※把握している属性項目によって追加して記載すること。

(B) メディアインパクト(報道等での周知状況)

	件数
新聞	
ラジオ	
テレビ	

※該当がある場合、別途参考となる資料を添付のこと。

7. 本実践研究事業の実施により得られた成果・効果

(自立や社会参加・就労等に関する具体的なエビデンスに基づく成果・効果、本委託事業終了後の成果の活用方針・手法等)

(1) 事業の実施により直接的に得た成果／アウトプット目標

※数値を用いる等して具体的に記載すること

- ①学校から社会への移行期の障がい者への学習機会の創出
 - 【当初目標】40名 → 【実績】42名(うち名は特定の回のみスポット受講)
- ②学園生活を通じて受講生が獲得する力の維持・開発・伸長
 - (ア)知識や興味の広がり(知識 教養)
 - i)多彩なテーマによる講義プログラムの提供
 - 【計9回 12講座を実施】
 - ii)カレッジ受講を通じて新しいことを学んだ受講者数
 - 【カレッジで新しいことが学べた…86.5%】
 - iii)異なる講義のテーマに対し、興味関心を持つ経験をした受講生数
 - 【興味を持った…81.8%】
 - (イ)学ぶ意欲の向上(自立性 主体性)
 - i)主体的な科目選択の機会の創出
 - 【部活動8種目の選択】
 - ii)主体的な発表の機会の創出
 - 【研究発表会で14名が発表。クリスマス会で20名が歌やダンスを披露】
 - iii)カレッジ運営への参画機会の創出
 - 【実行委員会に1名 連携協議会に2名の受講生が参画】
 - iv)学びの場への参加を今後も希望するか
 - 【今後も学びの場に参加したい…91.9%】
 - v)社会教育施設への参加の意欲と行動の変容
 - 【地域の学びの場に参加したい…77.8%】
 - 【地域の社会教育施設の利用行動について、受講初期と受講後期で比較すると6項目中5項目で利用割合が上昇】
 - (ウ)様々な人との交流経験の積み重ね(コミュニケーション能力 社会性)
 - i)受講生同士の交流機会としての部活動の実施
 - 【8種目を計4回実施】
 - ii)グループや班による共同学習、体験機会の創出
 - 【10月の野外活動でグループに分かれて火おこしを体験。クリスマス会でグループごとにクリスマスツリーの飾り付けを行った】
 - iii)カレッジで仲間や友人が出来た受講生数
 - 【仲間や友人ができた…86.8%】
 - iv)2学年制の実施による新たな交流の創出
 - 【昨年に比べて受講生同士の交流は深まった…81.8%】
 - v)受講生家族のユニバーサルカレッジへの評価
 - 【カレッジのことが話題になった…97.1%】
 - 【カレッジの話題をする受講生の様子：楽しそう…100%】

【学びの場に参加することについて：よい…100%】

vi) 受講生所属先(職場・事業所)のユニバーサルカレッジへの評価

【カレッジのことが話題になった…62.5%】

【カレッジの話題をする受講生の様子：楽しそう…95.5%】

【学びの場に参加することについて：よい…100%】

※アンケート調査結果詳細については別添資料参照

(2) 事業の実施により終了後(中長期的)に得た成果/アウトカム目標

※数値を用いる等して具体的に記載すること

教育関係者(学生を社会に送り出す側)、障がい者が働く企業や就労支援事業所(学生を社会で受け入れる側)双方に生涯学習の重要性が認知され、本事業のモデルを活かした同種の学習活動が広がることを目標とする。

本年度は、昨年度に引き続き、上記目標達成の第一段階である「生涯学習の重要性の認知」について主に取り組み、一定の成果を得た。

また上記の点のほか、今年度の実践を通じて得られた成果として下記3点を挙げる。

- ①カレッジが学びのニーズにこたえる場だけではなく、職場でも家庭でもない「第三の居場所・新たな人と人の出会いの場」としての性質を持っており、カレッジへの参加を契機に交流が広がっていること。
- ②受講生の新たな一面・可能性に職場や事業所の人が気付くきっかけになった。特に2年生について、2年間の積み重ねによる安定や成長が顕著であった。
- ③半数以上の受講生が地域の社会教育施設にアクセスしているが、その利用のしかたについて、より楽しんで利用できるよう、状況を把握していく必要があること。
- ④運営に参画したスタッフにとっても交流の中で気づきを得る機会となった。

上記をふまえ、情報・機会・適切な支援があれば「より多様な人が・一緒に学ぶ」ことが可能になる。カレッジの実践を活かし、障がい者が街に出て、地域の人も障がいを理解し、教えあう・支えあう状態＝ソーシャルインクルージョンにつなげていきたい。

(3) 本委託事業実施により得られた成果をどのように活用するのか。またその計画について、具体的に記載すること。

委託事業期間を運営手法やプログラム内容についての試行期間位置づけ、試行を踏まえ継続的、永続的に運営できる事業モデルを模索したうえで、委託事業終了後は、神戸市の協力を得てこうべ市民福祉振興協会の事業として、障がい者の生涯学習の場を継続していく予定である。

当事業で得られた成果を、学校(学生を社会に送り出す側)障がい者が働く企業や事業所(学生を社会で受け入れる側)、本人や家族にフィードバック(共有)することで、家庭や働く場以外のサードプレイスの必要性や学び続けることの意義への理解を深めることをめざす。また、受講生自身の学びの意欲を高め、地域での学びへと広がるよう働きかけを行うことで、今後、障がい者の学びたいという意欲を受けとめ、障がい者のために準備された場所だけでなく、地域の社会資源を活用して学びの場が広がるよう取組みを推進することにより、ソーシャルインクルージョンの実現をめざしていく。

